

提 案 概 要

実施期日	7月31日(金)
部 会 名	中学校 国語部会

1 提案テーマ 『話すこと・聞くことの指導と評価の工夫』

～ 売上げ日本一のセールスマンになろう ～

2 単元(題材) 「理想のロボット」 「中学生の国語三年」

3 学年 第3学年

4 平成27・28年度神奈川県中学校教育課程研究会研究主題とのかかわり

- ① 国語科における基礎的・基本的な知識及び技能の習得とこれらを活用して思考力、判断力、表現力等をはぐくむための年間指導計画、評価計画及び学習指導の工夫・改善
- ・相手や目的に応じて自分の考えを的確に書いたり、発表したりする指導の工夫・改善

5 学習指導要領との関連

第2章 第1節 国語 第2 各学年の目標及び内容 [第3学年] 2 内容 A 話すこと・聞くこと

- (1) ア 社会生活の中から話題を決め、自分の経験や知識を整理して考えをまとめ、語句や文を効果的に使い、資料などを活用して説得力のある話をする。
- イ 場の状況や相手の様子に応じて話すとともに、敬語を適切に使うこと。
- ウ 聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりすること。

6 実践に向けての課題意識

「話すこと・聞くこと」の学習では苦手意識をもっている生徒が多くいる。特に、発表の場面では、顔を上げて聞き手の反応を見て話すことに慣れていない生徒が多いことが課題として挙げられる。研究推進校として3年間、自校の研究テーマ「豊かな心を育む言語活動」～生きる力の育成を目指して～に沿って、聞き手を考えて話すことや気持ちを表現すること、話し手を理解しようと考えながら聞くことで豊かな心を育む学習活動を試みた。

7 実践の概要

「生徒の苦手意識を減らすこと」「聞き手を見て話せるようになること」「説得力のある話ができるようになること」の課題とともに、場の状況や相手の様子に応じて話ができるように、実践の中で身につけさせたい力を意識させながら取り組みやすい手立てを考えた。

本単元は教科書では「書く」の項目である。しかし、この題材に「売上げ日本一のセールスマンになろう」という条件をつけることで、自校の生徒たちに身につけさせたい力がつくのではないかと考えた。生徒に発表のイメージをもたせるために、導入ではテレビショッピングのCMを使った。また、話す相手を意識させるために、ロボットの絵を黒板に映し出したり、キャッチコピーを考えさせたりして発表準備を行った。発表では、話し手の評価をしながら聞き取ることを目的に、グループ発表練習(リハーサル)からクラス全体への個人発表の流れとした。

8 成果と課題

3年間の研究では、1年生から段階をふまえ「話すこと・聞くこと」に取り組んできた。本実践での成果としては、「セールスマンになりきる」や「ターゲット層を考える」などの条件をつけることで一人ひとりが役になりきることで、発表に対する苦手意識を減らすことができた。そして、グループ活動でリハーサルを行い、何度も練習することで自信をもち、聞き手を見ながら発表できる生徒が増えた。また、話す順番を考えたり、問いかけを取り入れたことで、聞き手がその商品を買いたくなるような説得力のある話ができ、

しかし、「話すこと・聞くこと」の活動における評価方法には、課題が残る。たとえば、グループごとに一斉に活動した場合、全ての活動を教師一人で見取るとはとても難しい。この場合、どのような評価方法が有効なのだろうか。また、生徒同士がグループでやりとりしたアドバイスや感想は、本番の発表に向けて大変参考になったと思われる。それを、自分の発表にどのくらい取り入れたか生かしたりできたかは、どのような方法で評価できるのか。ワークシートの工夫や評価について、今後も考えていきたい。

9 予想される協議の柱

- ・「話すこと・聞くこと」の評価について
- ・学習指導要領の2 内容 A 話すこと・聞くこと (1) ウ「表現に生かしたりすること」の評価の工夫